# 渋沢栄一と川越

日本経済の礎を築いた渋沢栄一翁の大河ドラマ「青天を衝け」、埼玉県民にとってはたまらない番組となった。
藍、お蚕様、広々とした大地と県北弁。
週末を楽しみにしている人々も多いはず。
この渋沢栄一翁、川越との縁も深い。
明治の川越の大火の時、義捐金を寄贈、時の鐘の銘文には渋沢栄一翁の名前が刻まれた。

また県立川越高校には、旧制川越中学創立25周年に配られた扇子に揮毫。
その現版が残る。雅号の青淵を用いて当時80代であった渋沢は青淵老人書と書いた。

王子に住んでいた渋沢翁は大宮から汽車に乗って、大宮から川越電気鉄道の特別列車で川に訪れたことも記録に残っている。
銀行、企業、商工会議所の創設に尽力した渋沢が商都川越を愛したことは明白である。

新1万円札の顔になる渋沢栄一翁。
今から７年前に地方自治法施行60周年を記念して発行された
千円硬貨の埼玉版は「時の鐘と渋沢翁」。さぞかし、今や価値があがってるのではないだろうか。